

いのちと健康を守る活動

<ラマダン中のムスリム医療チーム PIHS から>

ラマダン（イスラム教徒の断食月）の間は、スタッフたちもできるだけ、村を訪ねる活動は控えることにしていますというメールを受けて半月、近況が届きました。いくつかお伝えします。

— バニグ編みプロジェクトが好調の MULAN —

今年も MULAN（マラパタン町トゥヤンにある収入向上と地域医療の組合）のバニグ編製品が、マラパタン町のイベントで最優秀製品に選ばれ、サラングニ州政府による店舗の建設支援が決まりました。

バニグ編み振興事業は、4年前に私たちが WE21 みどりの助成で、始業資金や国道沿いの小さな店舗の建設支援から始まりました。短期間に州政府の評価を受けるに至ったのは、店舗を訪ねる度に、是非日本へのお土産にしたいと思う新製品に出会えるなど、常にデザインの改善に努めているためかと思われます。MULAN は、組合の収入向上と、ヘルス活動の財源確保目的を短期間に達成しつつあります。



PIHS が支援する 6 地域で、保健ボランティアを補佐し、収入向上やヘルス事業を指導するアリヘジョン（左）とナブサさん。今年の HANDS は、PIHS スタッフ 4 名のうち、2 名の給与相当分と、保健ボランティアの子どもたち 10 名分の奨学金支援で、PIHS の活動を支えています。

— 6 月に洪水の被害を受けたバロンギス —

ヘルス活動に必要な自主財源創出では、最も順調だった耕運機貸出事業のバロンギス、6 月の洪水で水田が荒れてしまって、貸出事業は休止中です。懸案だった安全な飲料水確保問題は、薬草を常備したヘルスポスト等の成果を評価したバランガイ政府の支援を受けることが決まりました。MULAN 同様に、PIHS と協働の私たちの支援事業が、政府関与の呼び水となった事例で、嬉しいニュースです。

— ブラコンの識字教室、母親達も 7 月末に卒業 —

5-6 歳児は 3 月のうちに卒業したブラコンの識字教室、母親クラスもいよいよレベル 1 を卒業です。レベル 2 終了で、教育省の識字教室修了の認定をもらえます。

ヤシ屋根材共同出荷の他、抗菌作用のある薬草入り石鹸作りも始めた母親たちの挑戦は続きます。

<CMIP ジョジョのクリニック日誌から>

— 医療定期支援、2014 年 4 月の報告より —

病気で倒れた夫の介護の傍ら、山の村での巡回診療、医療保健加入キャンペーンを続けていたジョジョさん、自身の体調不良への対応が遅れて、5 月下旬に緊急手術を受けました。しばらくは、巡回診療等の活動は休止し、ジェネラルサントス市内の CMIP クリニックでの患者対応だけとなります。

以下、先月 6 月上旬に届いた 4 月分の報告です。

<巡回診療>

* 4/25: ジェネラルサントスから約 1 時間のビラーンの村、サラングニ州アラベル町パライソで、マドリッド歯科医夫妻の巡回診療を実施した。受診者は 39 名、全員が進行した虫歯の患者で、抜歯治療を受けた。うち 10 代が 10 名、10 歳未満も 5 名いた。



シチオ・パライソのチャペルに設置された歯科巡回診療所には子どもたちの姿が目立ちました。

<その他の医療支援から>

* 4/11: ほぼ 1 週間、高熱、ひどい頭痛などが続き、病院でマラリアと診断されたロザナ（10 歳）が、キアミから付き添ってきた父親と一緒にクリニックに来て薬代の支援を求めた。かつてマラリア患者が多く、HANDS の支援で 9 年前に蚊帳を配布した後、しばらく患者が出なかった地域である。しっかり、薬を飲むとともに、蚊の発生を減らすため、地域の清掃をするようアドバイスした。

* 4/23: 8 日前から発疹、高熱、咳、下痢が続いているというキムジョン（1 歳 7 カ月）の両親から支援要請を受けて、すぐジェネラルサントス公立病院への入院手続きをした。

歯ブラシのご寄付に感謝

駄菓子や並べたサリサリストアアが、どんな辺境の村でも見かけるようになり、子どもの虫歯が増えています。歯ブラシキャンペーンでいただいた 120 本は、今回は、P 1 でご報告のブラクール小学校の教師に託しました。ありがとうございました！